



トップ製薬企業を目指して

2013年第1四半期 連結決算概要 (IFRS)

中外製薬株式会社
取締役専務執行役員 CFO
板谷 嘉夫

2013.4.25

将来見通し



本プレゼンテーションには、中外製薬の事業及び展望に関する将来見通しが含まれていますが、いずれも、既存の情報や様々な動向についての中外製薬による現時点での分析を反映しています。実際の業績は、事業に及ぼすリスクや不確定な事柄により現在の見通しと異なることもあります。

注：本資料の数値は億円未満を四捨五入して表示
増減、%は億円単位で表示された数字で計算

2013年第1四半期 連結決算概要



■ 売上収益 904億円（前年同期比+0.1%）

- 国内製商品（タミフルを除く）：エビスタ販売提携終了と薬価改定影響をがん領域・新製品の成長で補い微増（同 +1.0%）
- 海外製商品：輸出タイミング差によりアクテムラが25%減
- ロイヤルティ及びその他の営業収入：前年同期並み

■ 損益

IFRS損益

- 営業利益147億円（同 ▲17.9%）、四半期利益92億円（同 ▲15.6%）

Core営業利益 151億円（同 ▲16.6%）

- 円安及び製品構成の変化による売上総利益の減少と経費の増加により二桁減

IFRS実績及びCore実績



【億円】	IFRS実績	Non-Core調整		Core実績
	2013年 1-3月	無形資産・ 合併会計	その他の 除外事項	2013年 1-3月
売上収益	904			904
製商品売上高	870			870
ロイヤルティ及び その他の営業収入	34			34
売上原価	▲ 408	+2		▲ 406
売上総利益	496	+2		499
販売費	▲ 161	+0	+1	▲ 161
研究開発費	▲ 165	+0	+1	▲ 164
一般管理費等	▲ 23		+0	▲ 23
営業利益	147	+2	+2	151
金融費用	▲ 0			▲ 0
その他の金融収入(支出)	▲ 10			▲ 10
税引前四半期利益	137	+2	+2	141
法人所得税	▲ 45	▲ 1	▲ 0	▲ 46
四半期利益	92	+1	+1	95
当社の株主持分	89	+1	+1	92
非支配持分	3			3

Non-Core(除外)項目

1. 無形資産・合併会計
無形資産償却費:2億円
無形資産の減損、合併会計
に該当はありません。

2. その他の除外事項
事業所再編費用:2億円
環境対策費用:軽微
訴訟費用:軽微

(単位:億円)

Core四半期利益
(当社株主帰属) 92

(単位:百万株)

希薄化効果後
加重平均
普通株式数 545

(単位:円)

Core EPS 16.83

前年同期比 Core

損益の概要 1-3月実績



【億円】	2012年1-3月		2013年1-3月		増減	
	対売上収益		対売上収益			
売上収益	903		904		+1	+0.1%
製商品売上高	868		870		+2	+0.2%
タミフルを除く	790		787		▲3	▲0.4%
国内	681		688		+7	+1.0%
ロシュ向け輸出	68		51		▲17	▲25.0%
その他海外	41		48		+7	+17.1%
タミフル	78		83		+5	+6.4%
通常	75		75		+0	0.0%
行政備蓄等	4		8		+4	+100.0%
ロイヤルティ及び その他の営業収入	35		34		▲1	▲2.9%
売上原価	▲ 394	43.6%	▲ 406	44.9%	▲ 12	+3.0%
売上総利益	509	56.4%	499	55.2%	▲ 10	▲ 2.0%
経費計	▲ 328	36.3%	▲ 348	38.5%	▲ 20	+6.1%
営業利益	181	20.0%	151	16.7%	▲ 30	▲ 16.6%
金融費用	▲ 0		▲ 0		+0	0.0%
その他の金融収入(支出)	▲ 4		▲ 10		▲ 6	+150.0%
法人所得税	▲ 66		▲ 46		+20	▲ 30.3%
四半期利益	111	12.3%	95	10.5%	▲ 16	▲ 14.4%

ロイヤルティ及びその他の営業収入
▲1億円

金融費用 +0億円

その他の金融収入(支出) ▲6億円
為替差損益 ▲4億円
デリバティブ損益 ▲2億円

製商品原価率

2012年1-3月	2013年1-3月
45.4%	46.7%

期中平均レート(円)

	2012年 1-3月	2013年 1-3月
CHF	86.01	99.19
EUR	103.91	121.80

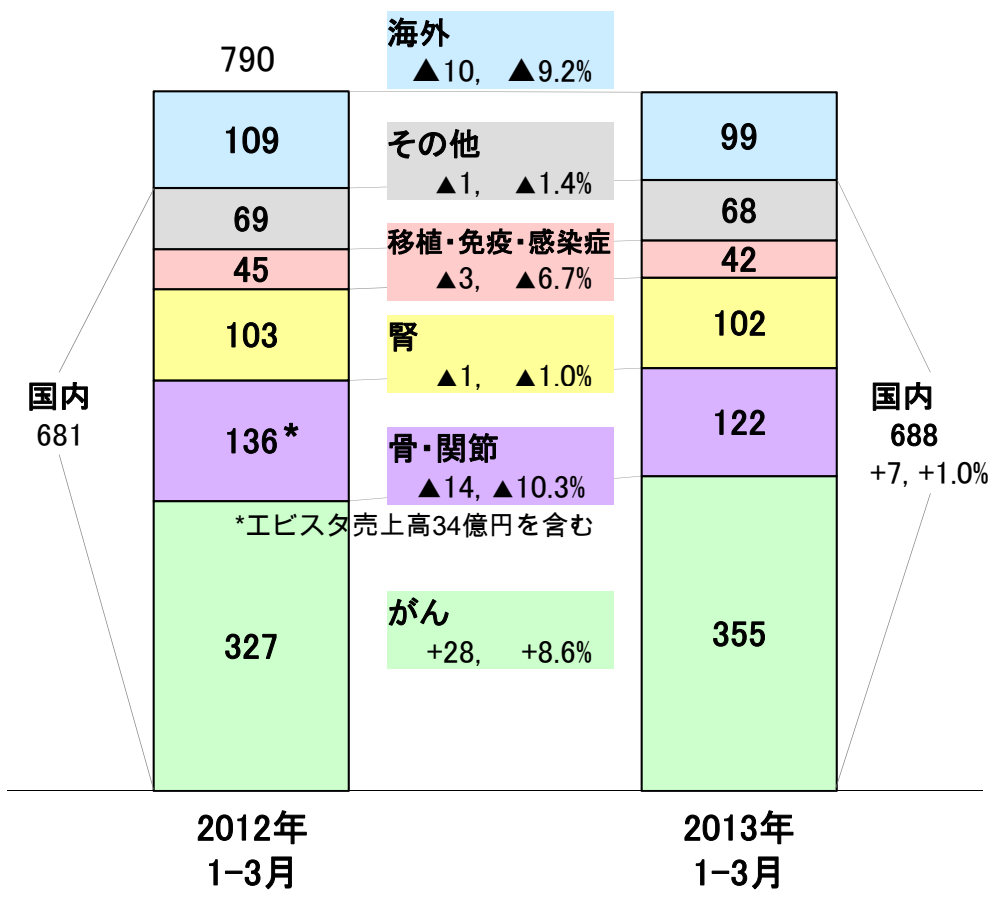
前年同期比

製商品売上高（タミフルを除く）の増減内訳 1-3月実績

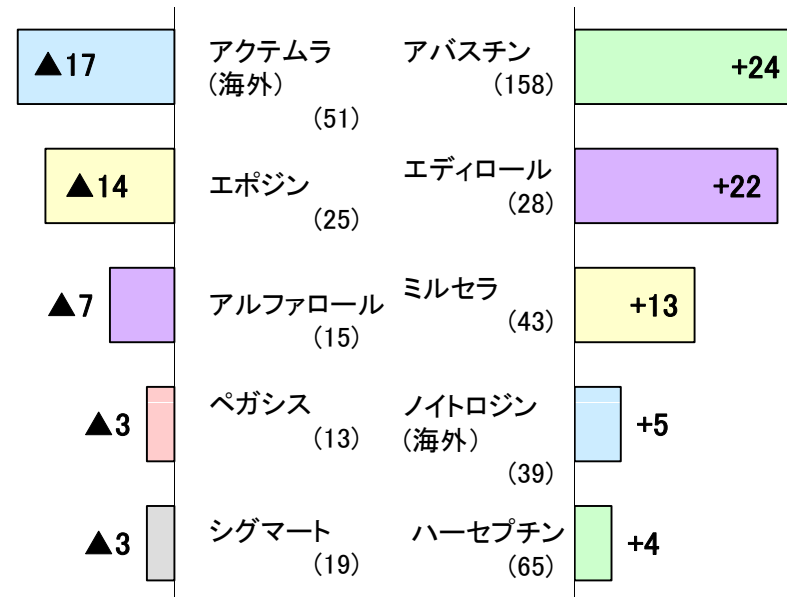


【億円】

製商品売上高(タミフルを除く)
787億円 (▲3, ▲0.4%)



個別製品の主な増減



左図: 領域別
右図: 個別製品
(前年同期比、()内は2013年実績)

タミフルの売上状況



【億円】		決算期売上										シーズン 売上	定点観測数* (百万人)
		2009年12月期		2010年12月期		2011年12月期		2012年12月期		2013年12月期			
		1-6月	7-12月	1-6月	7-12月	1-6月	7-12月	1-6月	7-12月	1-3月	4-12月		
通常	2008-09	110										167	1.27
	2009-10		252	14								266	2.02
	2010-11				2	41						43	1.26
	2011-12						13	78				91	1.63
	2012-13								24	75		99	-
	2013-14										6	-	-
通常		362 (+291)		16 (▲346)		54 (+38)		102 (+48)		81 (▲21)			
行政備蓄等	2008-09	144										155	
	2009-10		256	106								362	
	2010-11				59	5						64	
	2011-12						28	4				32	
	2012-13								15	8		23	
	2013-14										0	-	
行政備蓄等		400 (+387)		166 (▲234)		33 (▲133)		19 (▲14)		8 (▲11)			
合計		254	508	120	61	46	41	81	39	83	6		
		762 (+678)		182 (▲580)		87 (▲95)		120 (+33)		88 (▲32)			

黄色の網掛けは予想値、()内は前期比

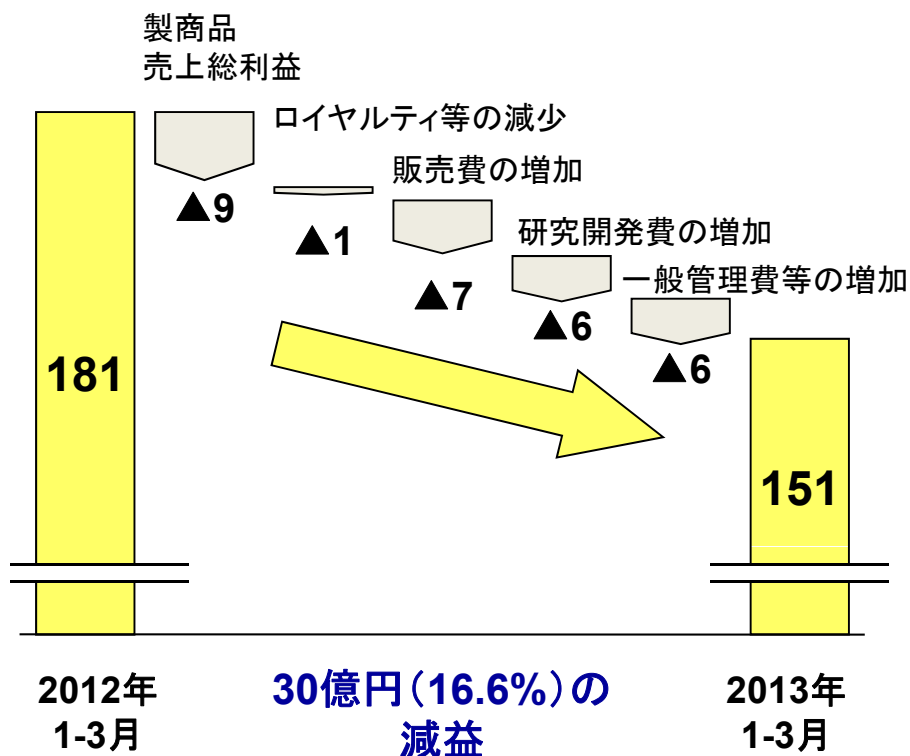
* 国立感染症研究所「感染症発生動向調査」10月下旬から4月中旬(2009-10シーズンは2009年7月初旬から2010年3月中旬)の合計患者数

前年同期比 Core

営業利益の増減内訳 1-3月実績



【億円】



【億円】	2012年 1-3月	2013年 1-3月	増減
売上収益	903	904	+1
売上原価	▲ 394	▲ 406	▲12
売上総利益	509	499	▲10
うち製商品	474	465	▲9
ロイヤルティ等	35	34	▲1
販売費	▲ 154	▲ 161	▲7
研究開発費	▲ 158	▲ 164	▲6
一般管理費等	▲ 17	▲ 23	▲6
営業利益	181	151	▲30

- 製商品売上総利益の減少 ▲9億円
円安影響及び海外アクテムラの減少
- ロイヤルティ及びその他の営業収入の減少 ▲1億円
- 販売費の増加 ▲7億円
前年の増益に伴う業績連動型賞与の増加
- 研究開発費の増加 ▲6億円
中外ファーマボディ・リサーチ社の活動本格化
- 一般管理費等の増加 ▲6億円
諸経費の増加

予想比 Core

損益の概要 1-3月実績



【億円】	実績		期初公表		2012年 進捗率*
	2013年 1-3月	2013年 1-12月	進捗率		
売上収益	904	4,160	21.7%		23.4%
製商品売上高	870	3,943	22.1%		23.1%
タミフルを除く	787	3,855	20.4%		21.8%
国内	688	3,293	20.9%		21.2%
ロシュ向け輸出	51	406	12.6%		26.6%
その他海外	48	156	30.8%		24.6%
タミフル	83	88	94.3%		65.0%
ロイヤルティ及び その他の営業収入	34	217	15.7%		31.0%
売上原価	▲ 406	▲ 1,832	22.2%		23.6%
売上総利益	499	2,328	21.4%		23.2%
経費計	▲ 348	▲ 1,553	22.4%		22.8%
営業利益	151	775	19.5%		23.9%
EPS (円)	16.83	92.57	18.2%		23.3%

*1-3月実績の通期実績に対する進捗率

予想比

国内製商品売上高（タミフルを除く） 1-3月実績



【億円】	実績		期初公表		2012年 進捗率*
	2013年 1-3月	2013年 1-12月	進捗率		
タミフルを除く国内製商品売上高	688	3,293	20.9%		21.2%
がん領域	355	1,754	20.2%		20.9%
アバスチン	158	766	20.6%		20.5%
ハーセプチン	65	304	21.4%		21.3%
ゼローダ	26	139	18.7%		22.0%
タルセバ	20	110	18.2%		20.0%
骨・関節領域	122	543	22.5%		20.5%
アクテムラ	40	191	20.9%		22.2%
エディロール	28	110	25.5%		7.6%
腎領域	102	520	19.6%		21.4%
ミルセラ	43	282	15.2%		16.9%
エポジン	25	86	29.1%		26.9%
移植・免疫・感染症領域	42	181	23.2%		22.2%
ペガシス	13	57	22.8%		23.2%
コペガス	3	12	25.0%		25.0%
その他の領域	68	296	23.0%		22.9%

*1-3月実績の通期実績に対する進捗率

予想比 Core

為替変動の影響について

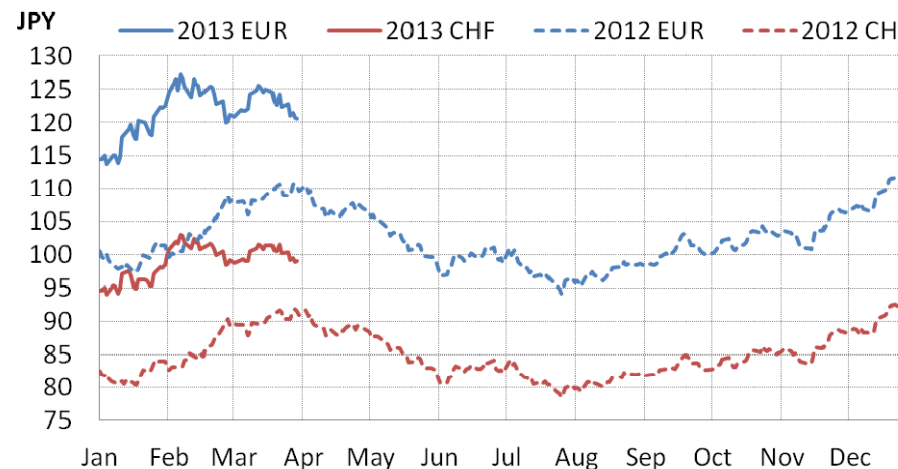


1-3月利益影響 (期初公表想定レート対比)	
+5億円	
売上収益	ノイトロジン(海外) +2億円
	アクテムラ(輸出) +2億円
	ロイヤルティ等 +1億円
原価・販売費	ロシュ品原価 ▲4億円
	海外販社販管費等 ▲2億円
営業利益	▲1億円

実績/想定レート*	1CHF	1EUR
期初予想 想定(通期)	95.00円	115.00円
1-3月実績	99.19円	121.80円
参考:2012年1-3月実績	86.01円	103.91円

*実績は期中市場平均

参考: 為替レート推移 (CHF, EUR)





Roche ロシュグループ

トップ製薬企業を目指して

開発パイプラインの状況

中外製薬株式会社
プロジェクト推進部長
高梨 契典

2013.4.25



開発の状況ーがん領域

導入品

RG597 / ハーセプチン®

HER2過剰発現が確認された乳がんにおける
術後補助化学療法への1週間間隔投与
2013年2月 公知申請

導入品

EGFL7 (RG7414) / parsatuzumab

固形がん
2013年3月 P1開始

自社品

WT4869 / WT2725

大日本住友製薬との共同開発終了
(予定適応症：骨髄異形成症候群、固形がん、
進行がん)

開発の状況－自己免疫疾患



Roche ロシュグループ

自社品

MRA / アクテムラ[®]皮下注製剤

関節リウマチ

2013年3月 承認



アクテムラ®皮下注製剤

アクテムラ®皮下注162mg オートインジェクター



✓承認日：
2013年3月25日

✓効能・効果：
既存治療で効果不十分な関節リウマチ
（関節の構造的損傷の防止を含む）

アクテムラ®皮下注162mg シリンジ



✓用法・用量：
通常、成人には、トシリズマブ（遺伝子組換え）として1回162mgを2週間隔で皮下注射する。

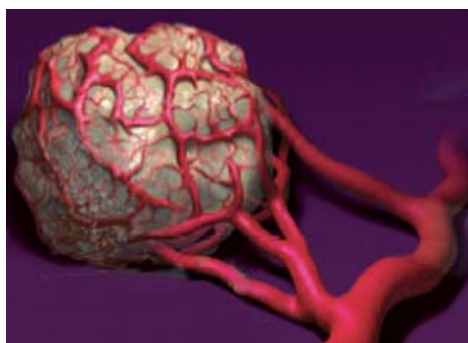
RG7414 (parsatuzumab) -アバスチン®による治療効果の増強・継続



腫瘍の増殖

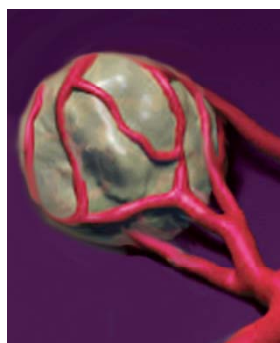
抗腫瘍効果

抗腫瘍効果の
増強・継続



抗血管新生作用
抗血管形成作用

アバスチン®



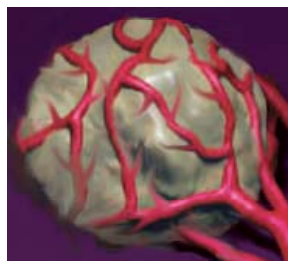
抗血管新生作用の
増強

新規治療

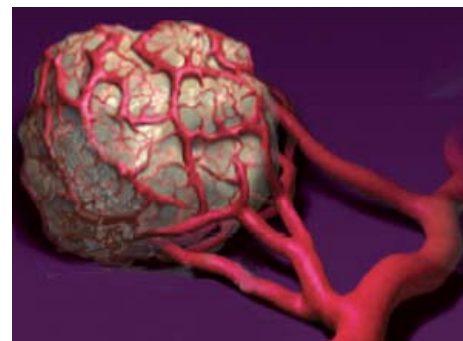
腫瘍血管の
再増殖の抑制



腫瘍血管の再増殖



腫瘍の再増殖



RG7414 (parsatuzumab) ー作用機序

EGFL7

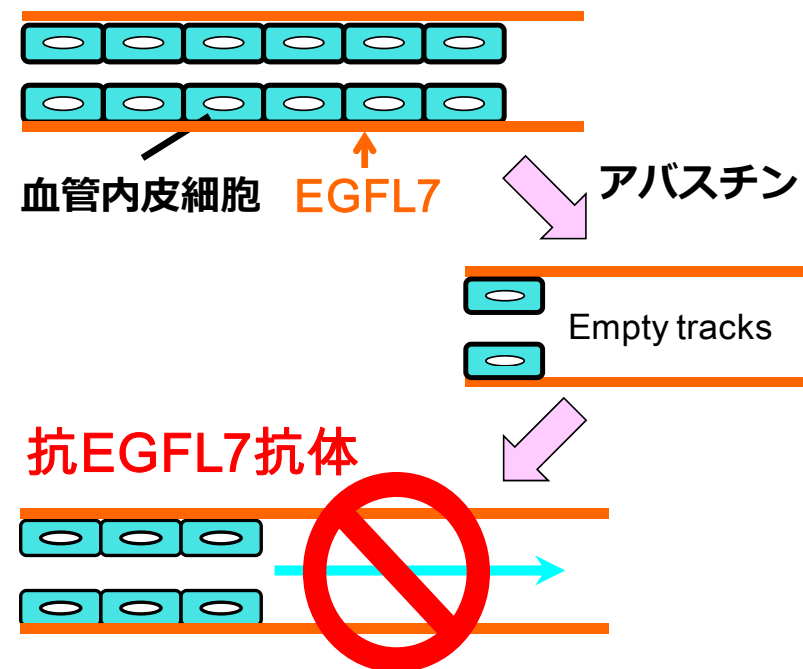
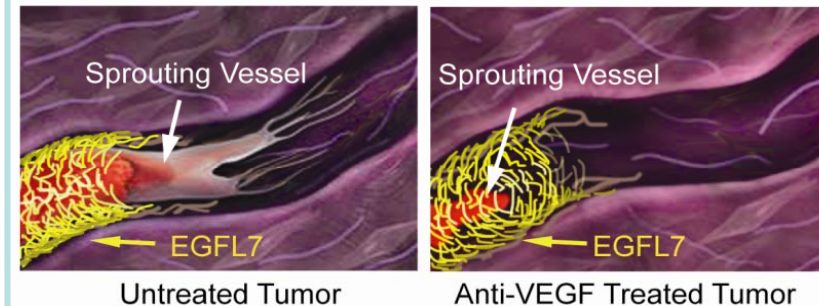
(Epidermal Growth Factor-like domain 7)

- 血管内皮細胞から分泌される細胞外基質タンパク質
- 腫瘍などの増殖性組織の新生血管に高発現
- 血管の管状構造の形成を調節
- 内皮細胞の接着を促進し、生存を延長

RG7414 (parsatuzumab)

- 抗EGFL7ヒト化モノクローナル抗体
- EGFL7と内皮細胞との相互作用を阻害し、腫瘍血管の機能低下を導く
- 腫瘍血管選択的に抗血管形成・抗血管新生作用を示す
- アバスチン®による抗血管新生作用の後、腫瘍血管の再形成を阻害

EGFL7 Tracks Support Tumor Endothelial Cell Survival and Regrowth



お問い合わせ先：広報IR部

報道関係者の皆様：広報グループ

Tel : 03-3273-0881

e-mail : pr@chugai-pharm.co.jp

担当：相川、河原、荒木、吉村

投資家の皆様：IRグループ

Tel : 03-3273-0554

e-mail : ir@chugai-pharm.co.jp

担当：内田、宮田、櫻井、時田、蓑島